

尺八アンサンブルコンサート

竹 合 韻 集

~Chikugo innshu~

豊中市立文化芸術センター小ホール

2019.11.7(Thu)

19:00開演 (18:30開場)

尺八アンサンブルメドレー 高橋一寿編曲

今回のコンサートのために、尺八五重奏の編成で6曲を編曲し、メドレーという形でまとめました。まず洋楽から『スター・ウォーズのテーマ』『ジ・エンターテイナー』『トランペット吹きの日』の3曲。ここではオーケストラなどの編成を尺八アンサンブルにぎゅっと凝縮しました。壮大であったり、コミカルであったり…それぞれ特徴のある曲ですので、曲ごとのカラーを楽しんで頂けると思います。

続いて歌謡曲からは、『天城越え』『また君に恋してる』『津軽海峡・冬景色』を選曲しています。こちらは「これぞ」という名曲揃いです。

特に演歌のメロディや合いの手は尺八の雰囲気によく合い、編曲作業をしてもとても楽しめました。皆さんのお気に入りの曲が見つければ幸いです。(編曲者より)

尺八1. 谷保範 星田一山 尺八2. 川崎貴久 倉橋容堂

尺八3. 折本岳慶山 永廣孝山 尺八4. 阪口夕山 松本太郎 尺八5. 饗庭凱山 小林鈴純 高橋一寿

尺八五重奏曲「行雲」 牧野由多可作曲

誠に興味あるグループが誕生した。

尺八『1979』、新しい息吹を尺八の世界に注入しようとする青年たちである。昨年六月、その第一回公演が行われた時、そのプログラムの中に私の旧作「邦楽器のためのエッセイ」があった。私は非常に興味を持ってこの新人達の演奏を聞きに行ったが、果たせるかな。その表現は清新の気あふれる颯爽たるものであった。それはまさしく次の時代の到来を告げる新しい波の台頭を見るおもいであった。また同時に尺八五重奏という、全く新しい分野への挑戦も私の興味を引くに十分なものがあつた。

さて、この「行雲」であるが、尺八は一つ一つの音に特徴があり、独奏から五部の絡み合いまで、できるだけ各パートの動きを他の従属物にしないよう対位的に迫って見た。

行く雲の流れに身をまかせて・・・尺八の音と共に、それは時に激しく、時に深く抒情の世界に沈潜しつつ、私の夢は一筋の光となって空の中に舞って行った。

構成は三楽章形式であるが、切れずにつづけて演奏される。

(1980年「行雲」によせて・初演に向けた作曲者牧野由多可の言葉)

尺八1. 星田一山 尺八2. 岡田道明 尺八3. 小林鈴純 尺八4. 倉橋容堂 尺八5. 川崎貴久

失われた「時」 三宅一徳作曲

1988年6月初演。子供の頃の記憶は、いつも幻想的で甘美な世界に包まれていて、夢にも似た不条理さを伴って自分の中に存在している。確かに現実のものだった筈のこれらの出来事は、既に忘れ去られてしまった様々な事柄によって、その連続性を断ち切れ、曖昧な記憶の中で再構築された「自分の演出による作品」に変質して存在しているのであろう。その作品の中では、過ぎ去ってしまった時は限りなく輝いていたように感じられる。この作品は、思い出の中だけで感じる事のできる、そんな甘くて切ない、しかも手が届かなくて、やるせないような懐かしさをもつ「失われた時」に対するオマージュである。(楽譜解説より転載)

尺八1. 永廣孝山 尺八2. 高橋萌山 米村鈴笙

尺八3. 折本岳慶山 阪口夕山 尺八4. 饗庭凱山 岡田道明



饗庭凱山



岡田道明



折本岳慶山



川崎貴久



國見政之輔



倉橋容堂



小林鈴純



阪口夕山

世々生生〈せせしょうじょう〉 前田智子作曲

「世々生生」とは歎異抄「一切の有情は、みなもって世々生生の父母兄弟なり。」の中にも出てくる言葉です。

この曲は、上田流尺八道創立100周年を記念して委嘱をいただきました。上田流が100年も続き、その願いが今日私たちのところまで届くということは誠に有難いことと思います。多くの方々がこの流派を支え、育て、そして未来に希望を託してこられました。その流れるものの魂に触れることによってそこに、現在の自分の姿が見えてきます。「世々生生」とは、その流れに我々が今触れていることへの自覚、そして未来永劫その想いを伝える願いを込めて、その名を命名しました。出来るだけ出しやすい音を中心に尺八のアンサンブルの多彩な空間（響きとリズム）で表現しています。古典の色合いと現代的な響きのなかで尺八の音色の素晴らしさを味わっていただけたら幸いです。（楽譜解説より転載）

尺八1. 谷保範 尺八2. 國見政之輔
尺八3. 高橋萌山 尺八4. 松本太郎 尺八5. 米村鈴笙

休憩

覚〈さとる〉～二本の尺八と群の為の合奏協奏曲 船川利夫作曲

独奏尺八二部、合奏尺八四部という一尺六寸管から二尺三寸管にいたる長短各種の尺八のみによる作品。作曲家・船川利夫は、川瀬勘輔、井上昌山両師の委嘱により、尺八二重奏曲「覚」を昭和43年10月に作曲しているが、その編成を大きくし、内容的にも第三章を増補するほか、様々な拡大・敷衍を行なって、合奏協奏曲ともいべき形に新しくまとめあげたのがこの曲である。昭和45年10月に完成し、同年12月に東京で初演された。（中略）

曲は「覚・さめる」「覚・しる」「覚・おぼえる」「覚・さとる」の四章から成り、窮極の境地である第四章「さとる」がそのまま一曲全体の曲名とされている。「これらの表題は決して自分を過信するのではなく“さめたい、しりたい、おぼえたい、さとりたい”という私の願望なのです」と作曲者はあくまでも謙虚であるが、客観的に判断して、尺八合奏についての作曲の時点での「さとる」であることは間違い無いであろう。（解説 蒲生郷昭・SJM-98.ビクターレコードより転載）

指揮 星田一山

独奏尺八1. 小林鈴純 独奏尺八2. 阪口夕山

尺八1A. 高橋萌山 永廣孝山 松本太郎

尺八1B. 折本岳慶山 谷保範

尺八2A. 岡田道明 高橋一寿

尺八2B. 饗庭凱山 米村鈴笙

尺八2C. 川崎貴久 倉橋容堂



高橋一寿



高橋萌山



谷保範



永廣孝山



星田一山



松本太郎



米村鈴笙



万博記念公園内『国立民俗博物館』にて展示 永廣真山銘尺八

日本の響—真山銘尺八

真山

文字—永谷繁山

古典用尺八
(広作り)

永廣真山

大阪府豊中市服部本町5-5-6 (〒561-0852)

電話 06-6863-0564

FAX 06-6863-7315

磨き抜かれた竹の響き

一城 銘尺八

小林一城

〒564-0073

(TEL) 06-6389-2033 (FAX) 06-6389-5844

大阪府吹田市山手町2-16-38

(E-mail) ichijou@pop06.odn.ne.jp

(HP) www.ichijou-shakuhachi.com



箏・三味線・十七絃・二十絃箏・二十五絃箏

大正五年創業

田波楽器株式会社

〒550-0025 大阪府西区九条南2丁目 16-36

TEL: (06)6586-0633 (代表)

FAX: (06)6583-7566

E-mail: tanamigakki@amethyst.bforth.com

